昭和女子大学現代教育研究所紀要　第 7 号　121～131（2022.2）

《実践報告》

小学校低学年を対象とした絵本活動の実践報告
―アフタースクールでの実践を通して―

金子　朝子（現代教育研究所所員　英語コミュニケーション学科）
髙味　み鈴（現代教育研究所所員　英語コミュニケーション学科）
國分　有穂（現代教育研究所所員　初等教育学科）
大野　直子（現代教育研究所研究員　昭和女子大学院 博士前期課程）
齋藤　玲子（現代教育研究所研究員　世田谷区立京西小学校 英語支援員）

1. 概要と活動の目的

昭和女子大学現代教育研究所の英語教育研究グループでは、グループ所属の所員、研究員をメンバーとして、「英語の絵本を読もう会」を企画し、その実践を通して、小学校児童がより主体的に英語に親しむ機会を提供し、小学校での英語教育における絵本の活用とその指導のあり方について検討している。

2020年より、小学５・６年生において外国語が教科となり、4 技能 5 領域での指導を行うこととなった。その中で、よりよいインプットを与え、児童が絵から学ぶことができる絵本を活用することは効果的であるといわれている（松本, 2015）。Krashen（1985）のインプット仮説においても、「i（input）+1」という適正条件を提案し、第二言語習得におけるインプットの重要性を提唱している。つまり、児童に全く理解ができないインプットを与えても一切理解することができないため、言語習得は促進されないが、少しの手助けがあれば、推測しながら意味を理解することができるようになるのである。

「意味のある文脈」の中で言語を教えることができ、児童に「言葉が育つ豊かな土壌」を与えることができるという点でも、絵本は非常に優れた教材であると言える（アレン玉井, 2010）。また樋口（2017）は、外国語科の授業や外国語活動では、各単元の目標とする語彙や表現を扱った短い会話のやり取りが中心となり、まとまりのある英語を聞く機会は少ないが、絵本の読み聞かせは、児童にある程度まとまりのある英語を聞かせることができる活動である、と述べている。

さらに、新学習指導要領に基づいた『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』には、絵本を活用することの効果に関して、次の 3 点が挙げられている（文部科学省, 2017c）。

・読み聞かせ活動では、児童が指導者の英語を聞き、絵の助けを借りて「英語を聞いて意味が分かる」体験をすることができる
・良質なまとまりのある英語をインプットできる
・絵本には同じ表現が繰り返し出てくるため自然に語彙や表現を身に付けやすい

（下線部は筆者による）

また、前述の『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』に基づき、読み聞かせの際は、以下の点に留意した（文部科学省, 2017c）。

・ジェスチャーを多用したり、絵本に載っている文言をそのまま読むのではなく、絵本の英語を児童に理解しやすく別の言葉で言い換えたりして、児童の理解を助ける
・一方的に聞かせるのではなく、児童に絵本の絵やあらすじについて時折質問したり、「児童とやり取り（インタラクション）」「間を取る」などしながら、児童のつぶやきや繰り返しを引き出したり、児童を絵本の世界に引き込むようにする
・一通り読み聞かせた後、注目させたい点を示し、もう一度読み聞かせをする

（下線部は筆者による）

外国語や外国語活動において、絵本を用いた指導の際には、教員が一方的に読み聞かせをするのではなく、簡単な英語語彙を用いて質問を投げかけ、児童が自発的にそれに答えるという相互交流を図ることが重要なのである。ジェスチャーや顔の表情なども、児童が絵本の物語の内容を理解する際の一助となるのだ。

また、新学習指導要領では、中学年では、「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を行い、外国語に慣れ親しませ、高学年より段階的に文字を「読むこと」「書くこと」を加えて学習を行うこととなった（文部科学省, 2017b）。新学習指導要領解説において、小学校の「読むこと」の目標として、次の 2 点が述べられている。

ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

（下線部は筆者による）

つまり、5・6 年生からアルファベットの文字指導も導入されることになるのだ。初期段階の日本人英語学習者にとってアルファベットを書いたり読んだりできるようになることは、継続して英語学習を行う上で必要不可欠なスキルの 1 つといえる。

そこで、本実践研究では、小学校での英語や英語活動における英語絵本の可能性を検証することを目的として、実践を行い、その実践内容と結果をまとめることとする。

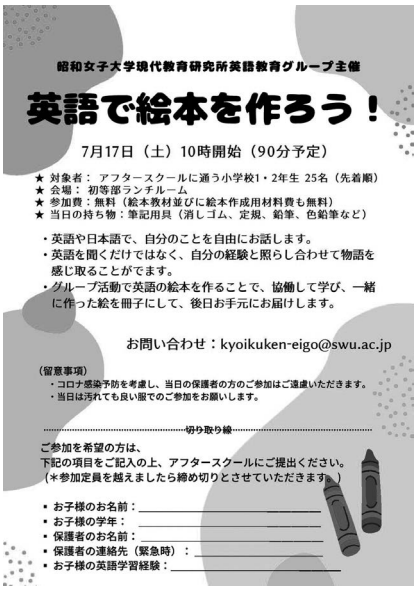
2. 実践報告

2.1. 事前準備

2021 年 7 月 17 日（土）に「英語の絵本を読もう会」を実施した。この実施のため、下記の準備を行った。

2.1.1. 参加者募集（2021 年 5 月～ 6 月）

「英語の絵本を読もう会」の参加対象者は、小学校低学年と設定し、この企画の立案を行った。会場を都内私立小学校ランチルームを使用することとしたため、都内私立小学校アフタースクールを利用している児童を対象に、チラシ（写真 1）を配布し、参加申し込みを行った。告知と同時に非常に良い反響があり、期待を上回る参加申し込みが寄せられた。


昭和女子大学現代教育研究所英語教育グループ主催

英語で絵本を作ろう！

7月17日（土）10時開始（90分予定）

★ 対象者： アフタースクールに通う小学校1・2年生 25名（先着順）
★ 会場： 初等部ランチルーム
★ 参加費：無料（絵本教材並びに絵本作成用材料費も無料）
★ 当日の持ち物：筆記用具（消しゴム、定規、鉛筆、色鉛筆など）

・英語や日本語で、自分のことを自由にお話します。
・英語を聞くだけではなく、自分の経験と照らし合わせて物語を感じ取ることができます。
・グループ活動で英語の絵本を作ることで、協働して学び、一緒に作った絵を冊子にして、後日お手元にお届けします。

お問い合わせ：kyoikuken-eigo@swu.ac.jp

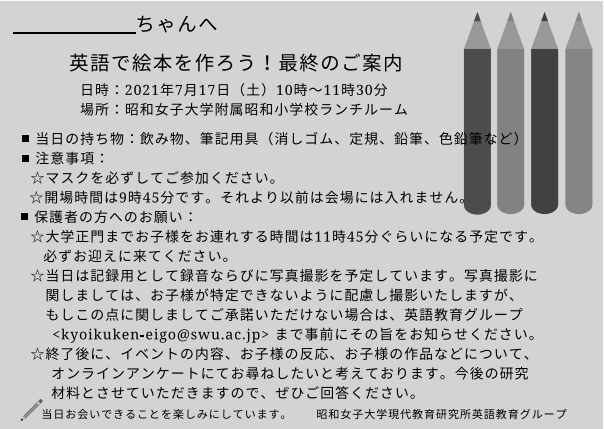
（留意事項）
・コロナ感染予防を考慮し、当日の保護者の方のご参加はご遠慮いただきます。
・当日は汚れても良い服でのご参加をお願いします。

切り取り線

ご参加を希望の方は、
下記の項目をご記入の上、アフタースクールにご提出ください。
（＊参加定員を越えましたら締め切りとさせていただきます。）

▪ お子様のお名前：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
▪ お子様の学年：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
▪ 保護者のお名前：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
▪ 保護者の連絡先（緊急時）：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
▪ お子様の英語学習経験：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

写真 1：告知用チラシ


＿＿＿＿＿＿ちゃんへ

英語で絵本を作ろう！最終のご案内

日時：2021年7月17日（土）10時～11時30分
場所：昭和女子大学附属昭和小学校ランチルーム

■ 当日の持ち物：飲み物、筆記用具（消しゴム、定規、鉛筆、色鉛筆など）
■ 注意事項：
☆マスクを必ずしてご参加ください。
☆開場時間は9時45分です。それより以前は会場には入れません。
■ 保護者の方へのお願い：
☆大学正門までお子様をお連れする時間は11時45分ぐらいになる予定です。必ずお迎えに来てください。
☆当日は記録用として録音ならびに写真撮影を予定しています。写真撮影に関しましては、お子様が特定できないように配慮し撮影いたしますが、もしこの点に関しましてご承諾いただけない場合は、英語教育グループ <kyoikuken-eigo@swu.ac.jp> まで事前にその旨をお知らせください。
☆終了後に、イベントの内容、お子様の反応、お子様の作品などについて、オンラインアンケートにてお尋ねしたいと考えております。今後の研究材料とさせていただきますので、ぜひご回答ください。

当日お会いできることを楽しみにしています。　昭和女子大学現代教育研究所英語教育グループ

写真 2：参加者用お知らせカード

申し込み開始 1 週間で、30 名の募集枠が埋まった。先着順に決定した33名（男子 6 名、女子27名/1 年生24名、2 年生 9 名）の参加者には、参加決定のカード（写真 2）を再度配布し、集合場所や解散時間、持ち物等の連絡を行った。

2.1.2. プログラム作成

今回の会の実施時間は90分であり、小学校低学年の児童にとっては長時間のプログラムとなる。プログラムの時間配分は、児童の集中力を保つため、学校の授業とほぼ同じ様に40分活動をし、その後10分の休憩を設け、さらに40分活動をするよう設計した。

プログラムは、本実践活動のメンバーである金子朝子氏の著書、『トンちゃんの冒険』（かねこ, 2021）の絵本（写真 3）を使用して立案した。『トンちゃんの冒険』は、主人公の女の子のトンちゃんが、様々な失敗をしながら成長していく絵本で、絵とあわせて日本語と英語両方が書かれてあるバイリンガル絵本であり、英語に親しみながら、日本語で理解を深めることができる。プログラムはこの絵本の日本語、英語での読み聞かせからスタートする。最初に絵本についての背景知識を得て、その知識を活用し、絵本の内容や英語への理解を深め、その後、絵や簡単な英語を書くことを通して自分のことを絵本の中に投影できるよう工夫された。本プログラムでは、第二言語習得の知見を活かし、英語の絵本を通して「読む」「聞く」インプットから、英語を担当者とともに「話す」「書く」アウトプットへと、自然な流れで行えるよう構成にした。また、各プログラムの中には、カードを使ってのクイズや、話の順番を当てさせる等、ゲーム的な要素を盛り込んだ（プログラム、当日運営マニュアルや活動案は添付資料を参照）。

写真 3：使用した絵本（一部）

2.1.3. 担当者準備会（6 月 26 日）

実施 3 週間前に、運営担当者 6 名で、プログラムの読み合わせと検討を行った。会場での児童の動線や、起こりうる反応、イレギュラーな事態等も予測し、プログラムの追加・改変や、準備物品の追加や全体の流れの調整を行った。

2.1.4. 当日前準備（7 月 9 日・16 日）

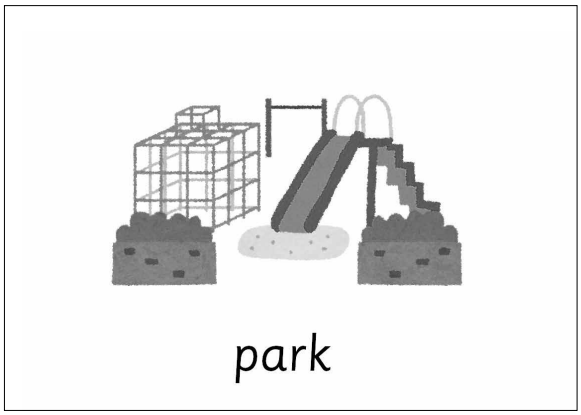
会で使用する物品の準備を行った。

児童が絵やお話の内容に集中できるよう、絵本はA3版に拡大し、紙芝居として見せることができるよう加工した。併せて、その場面で出てくる主要な語彙、擬態音（Crash！Squish！等）のカード（図 1）を、絵や写真を入れて作成した。この時点で、出版社に著作権上の問題がないことを確認した。

児童が絵を書くシートは、性別の違う参加者が自分自身のお話として作成できるように、『トンちゃんの冒険』の絵本をもとに、男子用、女子用の絵を作成した。また、自己紹介のページは、性別に関係なく絵を描けるように、洋服の色を黄色にする等の工夫をした。児童が絵の全体を書くには時間が足らないと考えたため、絵本の絵の一部を加工し、顔の部分のみ自分を想定して描き、名前の部分には自分の名前を書く、または、シールをはることができるように画像処理を行い、名前を書きこむページにはペンマンシップ用の 4 線を挿入した。そして、児童が絵本の中の自分が表現したい場面を選ぶことができるよう、絵本の中から 3 場面を抽出し（三輪車をこぐ場面、スイカ割りをする場面、ブランコに乗って遊ぶ場面）、それぞれに男子用、女子用を作成し、計 6 種類用意した。

英語を書き慣れない児童が、自分の名前を英語で書きこむ前に練習できるようにすることを考慮し、ペンマンシップの 4 線の用紙も準備した。また、絵本内に小さく名前を入れる場面が 1 か所あったため、日本語、英語の名前シールを作成した。

参加予定者33名は、1 グループを 5 名～ 6 名とし 6 グループに分け、参加者リストと名札を作成した。各グループには、他のメンバーをリードし、率先して発話してくれるであろう 2 年生の女子の参加者と、女子に対し少数であった男子の参加者を振り分けた。名札は宛名シールで作成し、グループ番号を入れ、担当者や他の子ども同士でもできるだけ名前を呼んでコミュニケーションがとれるよう、全てひらがなで表示した。



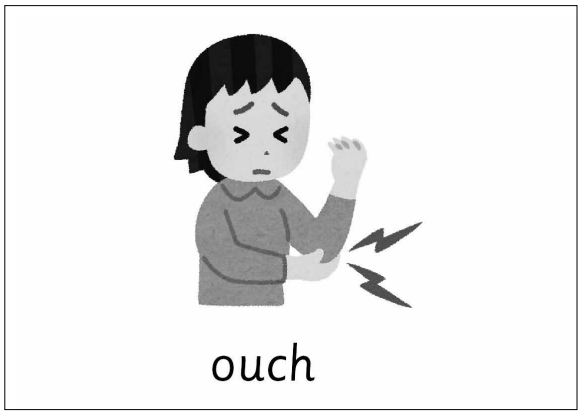


図 1：使用した語彙カード（一部）

2.2. 当日の流れ（7 月 17 日）

当日の流れを下記の通り進めた。

2.2.1. 入室

児童は入室後、手指を消毒し、受付で名札を取り、各チームに分かれて着席した。尚、当日欠席者を除いて、参加者は29名であった。

本日読む『トンちゃんの冒険』が、全員にプレゼントされ、自宅に帰ってから、また、ゆっくり本を見てもらうように伝えた。開始を待つ間は、会場に英語の歌を流し、英語の雰囲気を醸成した。感染防止のため、保護者の参加は不可とするとともに、入室時には参加者全員に手指消毒を実施した。また、密にならないような机の配置も考慮した。

2.2.2.「英語で絵本を作ろう！」の実施

司会者より開会を告げ、今回の活動の主旨を説明した。会の中での約束事として、間違ってもいいので大きな声で英語を話すこと、友達が困っていたら助けること、担当者の言うことを聞いて行動することを伝えた。その後、「1，2，3，4，5，Clap! Clap!」の歌を全員で歌い、各グループに分かれ、プログラムに沿って活動を行った。

プログラム前半においては、同じグループに友達がいないことから、発言する声も小さく、うつむきがちの児童も見られたが、プログラムが進むにつれ、児童たちは自発的に発言し「私もブランコから落ちたことがある、痛かったよ」と、児童自身の体験を語り、知っている英語の言葉を、担当者と一緒に発話するようになる児童が増加した。

特に児童が進んで参加したのは、英語のカードを使ってのクイズや、紙芝居状にした絵本の場面の順番を並び替える活動であった（写真 4）。これらの活動では、同じ児童がすべてに対して回答することがないように、担当者は当てる児童を変え、小さな声でヒントを出し、答えられない児童への配慮を行った。

自分自身の名前を英語で書く活動では、小学校 1 ～ 2 年生ということもあり、まだ英語の文字が書けない児童も見られた（写真 5）。グループ担当が薄く鉛筆で書いた上をなぞって書けるようにする、用意した 4 線の用紙に見本を書いて渡し、それを書き写す等の工夫を施した。中には学校外で英語を

学んでいる児童もあり、担当者の補助を必要としない児童もあった。

自分の顔を描く活動は、全員が自分の顔を空欄に書き込み、自分自身の絵本を作成することができた（写真 6）。色鉛筆やクレパスで美しく彩色する児童も見られた。ブランコから落ちて困った顔や、すいかわりに失敗した顔を描くことについては難しいと感じる児童もあったため、紙芝居状にした絵を見本として描いた。描きながら「ブランコから落ちたら、“Ouch!” というね」と絵本の表現から学んだ言葉を思い出して発話する児童もあった。

写真 4：当日の活動の様子

写真 5：絵本活動での児童の作品 1 （例）

写真 6：絵本活動での児童の作品 2 （例）

2.2.3.「英語で絵本を作ろう！」の終了後

各グループの担当者が児童の作品を回収し、司会者が全体の児童に対して、絵本の著者のかねこともこ氏の紹介をした。全員で英語での挨拶をして、会は終了し、会場の外で待つ保護者へと児童の送迎を行った。保護者に対しGoogle Forms上での事後アンケートへの協力を依頼し、うち20名の保護者がアンケートに回答した。

児童が制作した絵本は、8 月に表紙をつけて製本した。10月にアフタースクールを経由し、参加児童に渡された。

2.2.4. 参加者によるアンケート結果

ここで、イベント終了後に実施した保護者向けのアンケート結果をまとめてみたい。全 6 問の質問をし、質問 1 から 4 は 4 つの選択肢からの回答、質問 5 から 6 は自由記述での回答とした。回答数は 20 であった。

まずは、選択肢を用いた質問の回答結果は表 1 の通りであった。

質問 1： 英語の活動は楽しかったですか。	▪ とても楽しかった：90％（回答数18） ▪ まぁまぁ楽しかった：10％（回答数 2） ▪ あまり楽しくなかった：0％（回答数 0） ▪ まったく楽しくなかった：0％（回答数 0）
質問 2： 英語でお話しを聞いて、トンちゃんがどんな失敗をしたか分かりましたか。	▪ 良く分かった：80％　（回答数16） ▪ まぁまぁ分かった：10％（回答数 2） ▪ 余り分からなかった：10％（回答数 2） ▪ まったく分からなかった：0％（回答数 0）
質問 3： みんなで一緒に読んだ時、みんなと一緒に読むことができましたか。	▪ 全部できた：55%（回答数11） ▪ ほとんどできた：25％（回答数 5） ▪ 少しできた：15%（回答数 3） ▪ できなかった：5%（回答数 1）
質問 4： 自分の絵本を作るために、英語や絵をかくことはできましたか。	▪ 英語も絵もかけた：75%（回答数15） ▪ 絵は描けた：25%（回答数 5） ▪ 英語は書けた：0%（回答数 0） ▪ 英語も絵もかけなかった：0%（回答数 0）

表 1：保護者によるアンケートの結果

質問 1 の回答としてほぼ全員が「楽しかった」という回答であったことから、今回の活動に満足している様子が分かった。加えて、質問 2 の内容理解に関する質問に対して、90％の参加者が「分かった」という回答であったことからも、参加者にとってちょうど良い難易度の英語活動であったと考えている。更に、質問 3 の（声に出して）読む活動や質問 4 のかく活動に関しても、質問 3 には95％が

「できた」と、質問 4 には75％が「かけた」と言う回答であったことから、発話したり書いたりする活動としても適していたかと考えられる。但し、質問 4 に関しては、最終的に完成した絵本を見ると、（正確に）英語を書けているかという点からは、まだまだそうとは言えない参加者が多数見られたので、「書く活動」に関してはもう少し検討する必要があることが分かった。

質問 5 では今回の英語の活動についての参加者（児童たち）からのコメントを、質問 6 では保護者の子どもたちへの英語教育に対する考えを自由記述の形式で尋ねた。質問 5 からも、「楽しそうにしていた」とか、「またやりたいと言っている」とかのコメントが出ており、活動をして良かったと考えている。質問 6 の回答としては、「自然に」、「楽しみながら」、「長期的に」、「苦手意識を持たないように」等のキーワードが出ており、小学校の低学年を持つ保護者でも英語教育に対して強い興味・関心を持っていることが感じられた。この様な保護者の意見も考慮しつつ、これからの小学校での英語教育を展開していくことも必要であることが確認できた。

3. 考察とまとめ

今回の活動を通して一番記憶に残っているのは、参加者たちのとても楽しそうな様子と真剣に活動に取り組んでいる姿であった。多くの参加者が大きな声で英語を発話しており、その様子は自信を持って英語を話しているように思われた。今回用いた絵本の内容が参加者の日常に近いものであることがその理由の 1 つとは思われるが、しっかりと自分の中に内容を取り入れる（理解する）ことで自ら英語の発話ができるのだということを実感できた。この様な経験を継続して積むことで、英語学習者の英語への理解や英語学習に向けての動機づけが更に高まるであろうと考えられた。

また、英語と絵を描くという 2 つの異なる活動を合わせて実施したことで、子供たちの色々な才能を垣間見ることができて、この点も大変興味深いポイントであった。「英語は道具」として他の学習内容と絡めて学んでいく機会が今後多くなるであろうことを予測すると、今回の様な活動内容は今後の小学校での英語教育にて取り入れられるべきといえるだろう。

但し、「アルファベットを書く」という活動に関しては、今回の活動自体が時間的に短かったこともあり、「正確に書く」という所まではできず、「書き写す」という所までであった。

また、今回の活動案には、CLIL を重視し、選択した「ストーリー」にどんな図工科的要素、社会科的要素、道徳的要素などを取り入れることができるかといった点までは詳細に盛り込むことができなかった。この点は今回の反省点である。今後の活動を実施する中でより効果的な文字指導法や CLIL の視点を応用した絵本の活用については提案したいと考えている。

最後に、コロナ禍で29名の小学生に対面形式で今回の活動ができたことは、大変ありがたいことであった。参加してくれた児童とその保護者の方々、ご協力いただいた都内私立小学校のアフタースクール、そして会場をお借りした都内私立小学校には、心からの感謝を伝えたい。

追記

2021 年 12 月 11 日（土）にも同様のフォーマットで第 2 回目のイベントを実施した。参加者の中には 2 回とも参加した児童たちもいた。前回より積極的に活動に参加し、より正確にアルファベットも書

けるようになっていた。担当者としては子供たちに良い変化が見られて、大変うれしい結果であった。

引用・参考文献

アレン玉井光江（2010）『小学校英語の教育法－理論と実践』大修館書店.

かねこともこ（2021）『トンちゃんの冒険』文芸社.

樋口忠彦・加賀田哲也・泉惠美子・衣笠知子（2017）『小学校英語教育法入門』研究社.

松本由美（2015）初期英語教育における絵本の有効活用―児童の自発的反応を引出す「読み聞かせ」の試み―. 『玉川大学リベラルアーツ学部研究紀要』第 8 号, 35−42.

松本由美（2017）「小学校英語教育における教材用英語絵本選 定基準の試案―絵本リスト作成に向けて―」『玉川大学リベ ラルアーツ学部研究紀要』第10号, 7−15.

文部科学省（2017a）『小学校学習指導要領』

文部科学省（2017b）『小学校学習指導要領解説』

文部科学省（2017c）『小学校外国語活動・外国語研修ガイド ブック』

https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/__icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1387503_2.pdf（最終アクセス日 2021年 8 月31日）

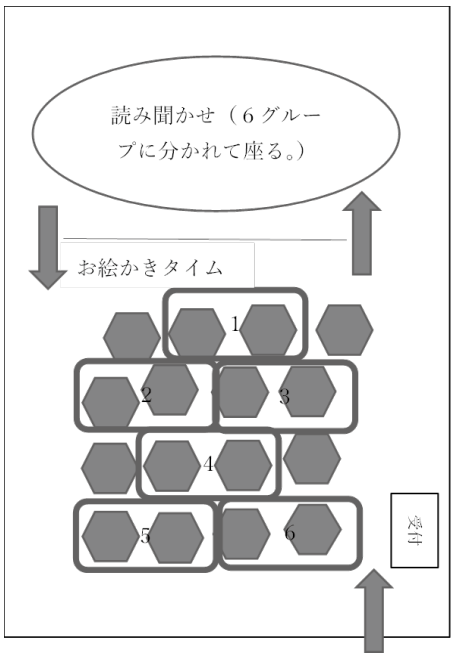
リーパーすみ子（2011）『アメリカの小学校では絵本で英語を 教えている』径書房.

参考資料：当日の運営マニュアル・活動案（一部抜粋）

絵本を作ろうプロジェクト　当日マニュアル

日時：7月17日（土）正門　8時55分集合

開場までの役割分担：
　受付：(　　)(　　)
　アナウンス：(　　)
　場内で待っている子どもたちの対応：(　　)(　　)
　全体対応：高味先生



会場までの準備：

開場後、会場設営

　レイアウト（右図）をどうするか？
　　（机椅子は現状を崩さないように使用する。）
　トイレの場所確認
　会スタートまでの待たせ方確認
　　待っている間に学年を聞き、2年生には
　「先輩だからよろしくね」と話しておく。
　　音楽をかける（iPhoneなどの音声でかけておくとOK）

児童の入場：9時45分開場

　①消毒「手を消毒してください」
　②マスクをしていない子の対応（子ども用マスクを配ってしてもらう？）
　③受付　**「こんにちは！では、お名前をいってください」**
　　→名前をマーカーで塗り、名札を渡す。
　　「今日は何グループです。＊＊先生のところへいきましょう」
　　グループの先生のところへ。グループの先生は「こちらです」と声をかける。
　　保護者がついてきた場合は…
　　「本日はお見送りありがとうございます。では、90分後の11時30分に
　　お迎えに来てください。また、終了後にアンケートがあります。必ずご回答ください」
　　＊見学希望が出た場合はお断りする。

10：00～会のスタート

開会のアナウンス：**「Hello！Everyone！これから絵本を作ろう会を始めます。皆さんは、グループの担当の先生と一緒に絵本を作ります。今日は、90分の間に素敵な絵本を使りましょう。**
　今日のお約束は3つあります。
　　1）英語は間違っても大丈夫なので、大きな声で元気に話しましょう。
　　2）困っているお友達がいたら、助けてあげましょう。特に、2年生の皆さんは、お兄さん、お姉さんなので、チームにいる1年生の皆さんを助けてあげてください
　　3）グループの先生の言うことをよく聞いて、たのしく英語を話したり、絵本を作ってください。

今日みんなで読む絵本は、皆さんにプレゼントします。この本を書いた人は、ここにいらっしゃる金子先生です！（拍手）みんな、この本を読むときは「この本の作者の先生にあったんだよ！」ってじまんしてね！
忘れないようにおうちに大事にもってかえってくださいね。おかばんを持っている人は、おかばんにしまいましょう。では、グループの先生、進行をよろしくお願いいたします。

＊＊＊

【1】原著の中で紙芝居として指導に使用する部分

① 表紙の絵（１枚）　② 自己紹介のページ（1 枚）　③ 三輪車のページ（2 枚）　④ ブランコのページ　（2 枚）⑤ スイカ割りのページ　（２枚）　⑥ 最後のまとめの２ページ、のうち、スーパーマンの絵のページ(1 枚)

⑦ But when?のページ（1 枚）　**合計 10 枚**

【2】Teaching Procedure　（あくまでご参考です。それぞれに楽しく指導していただければと思います。）

１．挨拶と自己紹介　３分　子ども達と指導者は**名札を付ける**。

T:　Good morning、everyone.　My name is _________.　/ What is your name?　S1: ○○。
T:　Good morning, ○○ちゃん。/And you are….　S2: ○○。
T:　Good morning, ○○ちゃん、○○ちゃん、○○ちゃん・・・。(全員の名前を確認する）

２．本の配布　１分

T: These books are our present for you.　This is for you, ○○ちゃん. (名前を呼びながら、全員に配布)

日本語で：おうちに帰ってから、この本を開いて下さい。今日は、このお話の一部を皆で読みます。(以下（日本語で：）は必ず日本語で話す。)

３．Prior Knowledge　４分

T:これまでに大失敗した事はありますか？　どうかな？　2，３人に聞く。先生が子どものころに失敗したことをお話（日本語）する。○○ちゃんはどうかな？　残り全員に聞く。

４．Story Introduction　５分　以下、下線は単語カードあり。カードをみせて、一緒に発音する。

T:　Now, look at this picture. (紙芝居 1 枚目＝タイトルページ）　Is this a boy or a girl?　（以降の質問の答えは日本語でも英語でも OK.日本語で答えたら、“Yes, it's a girl.”の様に英語で返す。Her name is Ton-chan.
T:　Look. Ton-chan is riding a tricycle.　“Tricycle”, “ riding a tricycle（絵を指さし）”の様に語彙とフレーズを繰り返す。
Ton-chan is riding a tricycle。
(日本語で:) この絵本にはトンちゃんの失敗が書いてあります。トンちゃんはどんな失敗をしちゃうのかな？

５．Picture Walk and Vocabulary 15 分（こどもたちが理解できない様子ならば、左にある日本語を読んで OK）

T:（日本語で：）それじゃ、お話の絵をもう少し見てみましょう。 Look. (三輪車のページをみせる。）
S: She is riding a tricycle. (子供達からの返事がでなければ、先生が数回繰り返す)
T: Faster and faster.　もっと速く、もっと速く。(日本語で：）トンちゃんは、どうしちゃったのかな？